

# 概要報告

実施期日	令和7年8月5日(火)
部会名	中学校 社会部会

## 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

## テーマ

『個別最適・協働的な学び～質問づくりで主体的に学ぶ生徒の姿～』

## 提案概要

### ・本提案の設定理由

主体的・対話的で深い学びの視点から「個別最適な学び」と「協働的な学び」に焦点を当て、授業改善に向けて実践を行った。状況が目まぐるしく変わる社会の中で、単に知識・技能を身に付けるのではなく、身に付けた知識をもとに思考し、議論する力を育むことを重要視した。また、中学校卒業後の学びに繋げるために、自ら課題を立てたり、人と協働して課題解決に向けて取り組んだりする力を育むことも目的とした。

### ・本提案を通じて身に付けたい力

本提案では、生徒の主体的な学びを引き出すために、生徒が自ら学習課題を設定し、取り組む「質問づくり」を軸とした授業を行った。「質問づくり」や、関連する資料を用いた調べ学習、話し合いやまとめでの表現活動を通じて、「①生徒が批判的思考をもち、自ら考え発信する力②自己決定ができて、自分の人生に納得して生きる力③他者の意見に耳を傾ける柔軟性」の3つの力を育成するねらいがある。

### ・実践内容

「質問づくり」を軸とする授業は主に次の5段階から構成されている。

#### 1. 基本事項の確認

教科書を使用して、単元全体の基礎事項を確認する。

#### 2. テーマに関する「質問づくり」

3～4人のグループに分かれ、「質問づくり」を行い、決められたテーマに沿った学習課題を設定する。

#### 3. 資料を活用した調べ学習

グループで設定した学習課題について、教科書等を使用して調べ学習を行う。

#### 4. テーマにかかわる事柄の説明・議論

教師が提示した学習課題について、コの字型の座席でクラス全体で話し合う。

#### 5. まとめ・ふりかえり

グループで設定した学習課題について、これまでの調べ学習やクラス全体での議論をもとに、個人で考えをまとめる。

また、学習内容の振り返りに加えて、自分自身の取り組み方についても振り返る。

## ・成果と課題

「質問づくり」を行うことにより、生徒の意欲を高める効果以外にも、質問を追究する中で、より良く学ぶことができたり、自分自身で課題を見つける力を身に付けたりすることが期待される。

一斉型授業ではなくグループ形式をとることで、多くの生徒が調べる力やまとめる力、考える力を向上させることができたと感じ、この学習の進め方についてプラスの評価をしている。また、知識の定着を図るテストの結果等からは差異は見られなかったため、知識を身に付けるだけでなく、様々な力を身に付けることができる本提案は成果があったといえる。

一方で、思考を働かせ、考えを深めるのに適したテーマを立てるために、教師はさらに追究を続ける必要がある。また、生徒の授業での様子を丁寧に見取り、生徒が発する問いやモヤモヤに注目し授業に反映させていくことが大切である。

## 質疑応答

特になし

## 協議の柱及び協議概要

協議の柱『楽しく深く学べる問いを生み出すための授業づくり』

### ・「質問づくり」体験で出た意見

○生徒は、レベルの高い質問を選択できるグループとそうでないグループができてしまうのではないかと。

○テーマをどのように設定するかが、「質問づくり」で生徒の思考が深まる課題設定につながるかどうか大きく影響している。

### ・協議の柱についての話し合いで出た意見

○皆で考えたいくなるような問いを生み出すことが大切である。開いた問いは皆が参加しやすい。

○問いづくりをするうえで、「自分事」としてとらえられるようにするために、小学校では体験から問いを生み出し、中学校では価値観を揺さぶるような問いを生み出せるとよいのではないかと。

○社会に興味・関心をもちづらい生徒へのアプローチを今後も検討する必要がある。

## まとめ概要

本提案では「これからの時代を生きる子どもたちにどのような力を身に付けさせたら良いか」という点に注目し、授業づくりが始まっていた。社会科の授業を通して、子どもたちにどのような資質・能力を育てたいかという前提を大切にして、今後も授業づくりに取り組んでいく必要がある。今回の実践を受けて行ったアンケート結果に注目すると、肯定的な結果が多くみられ、「自ら考え発信する力」や「他者の意見に耳を傾ける柔軟性」が育成されていることが読み取れる。また、「社会科は好き」「面白い」と回答した生徒も多く、得意不得意にかかわらず多くの生徒が授業に意欲的に参加できていることがわかる。

今後の課題としては、生徒の話し合いの内容に着目し、教師が適切な仕掛けを示すことである。「生徒が活発に話し合いをしているから良い」と表面的に評価することにとどまらず、話し合いの質が高まっているかを丁寧に捉え、教師は良きファシリテーターになる必要がある。